

生協連会報

2026

1



No. 549

<新年のご挨拶>

千葉県生活協同組合連合会 会長理事 打越和佳子 1

<活動報告>

第4回食・消費者委員会開催報告 2

地域生協部会広島視察研修報告 4

IYC2025記念「ちばの海を守ろう！キャンペーン 2025年度環境学習会 7

令和7年度国際協同組合年記念・千葉大学公開寄附講座開講報告 9





謹賀新年

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます

令和八年 元旦

千葉県生活協同組合連合会

生活協同組合パルシステム千葉

生活クラブ生活協同組合(千葉)

千葉県庁生活協同組合

千葉大学生生活協同組合

千葉商科大学生活協同組合

千葉県高齢者生活協同組合

生活協同組合コープみらい

なのはな生活協同組合

千葉県学校生活協同組合

東邦大学消費生活協同組合

生活協同組合ちば住宅コープ

千葉県勤労者共済生活協同組合

〈準会員〉

東京都生活協同組合

常総生活協同組合

新 年 の ご 挨 拶



千葉県生活協同組合連合会
会長理事 打越 和佳子

新年あけましておめでとうございます。旧年中は会員生協の皆様に、千葉県生協連の活動に対し、多大なるご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

私たちの暮らしは今、気候変動や経済格差といった大きな転換期にあります。こうした中、県内各生協では、「食の安全」を守る産直の取り組みや、「誰もが自分らしく」暮らせる福祉のまちづくり、そして「ともに未来を創る」たすけあいの活動など、それぞれの強みを生かして地域課題に真摯に向き合っておられることと存じます。これら多様な活動の根底にあるのは、「一人の願いをみんなの力で実現する」という協同の理念です。

去年は国連が定めた「国際協同組合年」として、協同組合の価値を再確認する一年となりました。続く2026年は、その連携の輪をさらに広げ、地域社会での「実践」へと移す年です。行政や他団体とのパートナーシップを一層深め、フードドライブや災害支援、高齢者の見守り活動などを通じて、千葉県の地域力向上に一層貢献してまいります。

誰一人取り残さない持続可能な社会を目指すSDGs（持続可能な開発目標）は、多くの部分で生協の理念と重なり合っています。千葉県生活協同組合連合会は、会員生協の皆さまをはじめ、各協同組合、地域で活躍する団体の皆さまとともに、誰もが安心して暮らし続けられる地域社会の実現に向け一層の努力を重ねてまいります。

結びに、本年が会員生協の皆様にとって、さらなる飛躍と発展の年となりますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2025年度 千葉県生協連第4回食・消費者委員会

12 つくば市食料政策推進協議会

日 時：2025年12月4日（木）14：00～16：30

会 場：千葉県生活協同組合連合会 会議室

出席者：山本(なのはな)、神野・黒崎(パルシステム千葉)
(敬称略) 深町・中井(生活クラブ)

事務局：尼崎・依光(県生協連)・佐藤(日本生協連)

内 容：第4回消費者委員会は「食料安全保障」をテーマに講師をお招きし、オンラインでお話いただきました。

拡大版で開催し事務局・講師含め、12人が参加しました。(抄録・文責：事務局)



中森農産株式会社
代表取締役 中森剛志さん

「食料安全保障の確立をめざして」

講師：中森農産株式会社代表取締役 中森剛志さん

■最近の「お米が足りない、高い」という騒動の半分は構造的な問題、「農業が壊れ始めているサイン」です。本来、米の消費量は減るはずが、ここ数年、インバウンドなどで需要が上がってしまった。作る人が減り続けている中で需要が増えれば、当然お米は足りなくなります。このギャップがさらに広がれば、将来的に年間400万トンもの米が足りなくなる。本当に食料危機になってもおかしくないフェーズにきています。

■僕がずっと警鐘を鳴らし続けてきたのが「2025年問題」です。農業には定年がありません。これまで、団塊の世代の方々が70代、75代になっても腰を曲げながら現場を守ってくれました。でも、いよいよ限界です。2025年を境に、彼らが後期高齢者となって一斉に現役を退くスピードが加速します。これは、単に「農家が減る」という話ではなく、日本の農地が一気に耕作放棄地へと変わっていく、終わりの始まりです。

■2040年代、日本は「経済力で穀物を買う」ことすら難しくなるかもしれません。2044年には、日本の経済力は世界の中で今のメキシコ並みの「中堅国家」になると予測されています。これまでは「金を出せば世界中から食料が買える」という特権がありましたが、将来は買い負けてしまい、文字通り「食料不安」に襲われるリスクが極めて高い。2040年代に日本の食料需給ギャップは最大化します。

■「農業の産業化」が必要です。製造業なら生産性は数百倍に進化してきたのに、米作りはこの数十年でたったの3倍です。ビジネスとして利益が出ず、若者が夢を描けない場所に未来はありません。だからこそ、僕らはITや大規模な拠点経営を駆使し、しっかり稼げる「強い農業」を全国で作っていかないと、世代交代は絶対に不可能です。

■機械が入らない山間農業地域や観光業が成り立たない中間農業地域を守ることが、日本の食料安全保障の分水嶺になってくると考えます。そこで僕たちは、食料安全保障の確立のため、そのような地域の事業承継を進めています。

■原点は、東日本大震災の現場で見た「農村の底力」でした。震災直後、ライフラインが止まった市街地はパニックでした。食べるものがなくなれば、社会は一瞬で崩壊する。でも、支援に行った農村や漁村の人たちは驚くほど元気でした。水がある、薪がある、自分たちで食

料を作れる。有事の際に、最後の一線で命をつなぐのは、自然と結びついた地域です。この「命のバックアップ」を失うことは、国家としての敗北を意味します。

中森さんは「食料安全保障は、遠い国の話でも、政治家の仕事でもありません。僕たちが作る米一粒一粒は、そのまま「日本の国土を守るための維持費」だと思ってほしい。皆さんが今日何を食べるか、その選択が20年後の日本の食卓を左右しています。」と結ばれました。



2. 各生協からの報告

○パルシステム千葉

- ・10月26日に「商品展示会」を ハート柏迎賓館（柏市）にて 開催しました。 メーカーや生産者、役職員との交流を通じて、作り手の背景を知り商品への理解を深めるとともにパルシステムの魅力を味わっていただきました。
- ・12月6日に「子育てフェスタ」を ペリエホール（千葉市）にて子育て情報と子育てを楽しむ機会の提供し、千葉県連「家庭内の事故から子どもを守ろう！」企画も開催しました。

○なのはな生協

- ・10月29日に基調講演「米不足の今、日本の食と農を考える」＋DVD上映会「お米が食べられなくなる日」を開催いたしました。基調講演の講師は、日本有機農業学会副会長であり千葉商科大学 社会学部准教授 小口氏です。組合員の皆様と一緒にこれからの日本の農業について考えるきっかけになればよいと企画いたしました。参加者それぞれ、食と農について考えてくださったようです。
- ・11月26日の井筒ワイン試飲会では、6種類のワインの試飲をしました。ワインの説明だけではなくワインに関する雑学もレクチャーいただき学ぶことが多い生産者交流会でした。
- ・エリア活動では、南部エリアで近藤醸造の生産者交流会を行いました。どのような想いで作っているのかを近藤社長から直接お話をさせていただきました。

○生活クラブ生協

- ・11月1日、海の学校を南房総市千倉で開催しました（協力・提携生産者 千葉県漁連）。前半は海的环境、漁獲量、はたらくひとについて学習しました。後半は鯖の3枚おろし・骨抜き体験、伊勢海老やあわびなどの畜養場見学をおこないました。海・はたらくひと・消費者がつながり身近に感じることができました。魚の大きさや種類がさまざまなため、食品ロス対策として鰯や鰯の大きさに合わせて加工品を製造開発しており、多くの惣菜を生活クラブで販売する取り組みをしていることを知り、食べることで魚を守り、はたらくひとを支え、みらいの豊かにすることができることを改めて気づくことができました。
- ・11月は各ブロック主催（野田市、白井市、柏市）で、マルシェを公園やコミュニティプラザで開催。提携生産者、地域の組合員、地域住民と一緒に開催し、持続可能な取り組みをしている食材の試食や生活クラブの仲間を増やす案内、地域が元気になるような活動をしました。

○コープみらい

- ・11月26日に船橋農産物供給センターの方を講師に迎え「旬の野菜食べてる？生産者に聞いてみよう！野菜のおいしい話」を開催しました。当日はにんじんやブロッコリーなどの試食を通して、野菜のおいしさを実感していただき、産地の方や参加者同士で交流を深めることができました。生産者の苦勞を知ることで、高騰する野菜の価格にも納得でき「食べて応援」

2025 年度地域生協部会 広島視察研修報告



日 時 : 2025 年 12 月 12 日 (金) ～12 月 13 日 (土)

参 加 者 : なのはな生協 (岩崎専務理事)、コープみらい (打越執行役員)、生活クラブ生協 (山崎専務理事)、千葉県生協連 (尼崎専務理事)、同 (佐久間事務局長)、同 (依光政策担当)、同 (竹内平和担当)

目 的 : 戦後・被爆 80 年を経て、戦争や被爆の実相を語る人たちも少なくなっています。千葉県内で、戦争体験や被爆の実相を語り伝えていくためには、どのような方策があるのか、被爆地の皆さんから学ぶことを目的とします。また、今回の視察から 2026 年度の平和に関する取り組みを検討する手掛かりとします。

スケジュール

- 12/12 (金) 13:30 【プログラム 1】生協の平和活動
広島県生協連代表理事長 岡村信秀様
- 15:10 【プログラム 2】被爆の証言
(公財) 広島平和文化センター「被爆体験証言者」八幡照子様
- 17:00 【プログラム 3】本川小学校平和資料館見学・11 号絵碑見学
平和ガイド 元生協ひろしま理事/県連組織協力員 新谷美樹子様
- 12/13 (土) 8:00 【プログラム 4】広島平和記念資料館 (原爆資料館)・国立広島
原爆死没者追悼平和祈念館視察
- 9:00 【プログラム 5】碑めぐり・戦跡めぐり
平和ガイド 元生協ひろしま理事/県連組織協力員 新谷美樹子様
- 12:30 【昼食交流】振り返り、広島県連との交流
- 14:30 【解散】

内 容

地域生協部会と千葉県生協連の職員研修を合わせて、12 月 12 日から 13 日の 2 日間で、視察研修をおこないました。

1 日目は、千葉県生協連地域生協部会長の岩崎部会長からのあいさつの後、広島県生協連の岡村会長から「戦争も核兵器もない平和な世界をめざして～人道的アプローチによる人類全体の安全保障へ～」をテーマに講演を聴きました。現在の国際社会は「抑止力」を根拠に、軍備増強と軍事的安全保障の枠組み強化をおこない危機的な状況に直面していること、日本は唯一の戦争被爆国だということを自覚し、リーダーシップの発揮や市民社会の高揚が期待されていることを話されました。



岡村会長の講演の様子

現在、世界には 12,000 発以上の核兵器あります。戦争も核兵器もない安心して暮らせる「平和」な社会に向け、一人ひとりの市民が主体的に関わり創っていくこと「つくる平和」が大切であることを教えていただきました。続いて被爆体験証言者の八幡さんより『8歳の記憶「ヒロシマ」』の被爆体験を聴きました。八幡さんは8歳の時に爆心地から2km離れた己斐橋で被爆され爆風で5、6m吹き飛ばされたそうです。八幡さんの話は八幡さんの記憶を元に美術部の学生が描いた忠実な絵で紹介され、当時の様子がリアルに思い浮かばされました。



八幡さんの被爆体験の様子

その後、平和ガイドの新谷さんの案内で爆心地にもっとも近い学校だった本川小学校に行き、現在は平和資料館となっている場所を視察しました。当時の校舎は外部を残して全焼、10名の教職員と約400名の子どもたちの命が一瞬のうちに奪われました。次に被爆80年の節目の年に建立された11号碑を見学しました。この絵碑の建設費用は全国の生協に募金の協力が呼びかけられ、千葉県生協連でも募金をしました。



本川小学校視察の様子
一番右はガイドの新谷さん



本川小学校 当時の様子を残して
現在は資料館となっています



11号碑説明の様子 左は広島県
生協連の福島専務補佐

2日目は始めに広島平和記念資料館（原爆資料館）・国立広島原爆死没者追悼平和祈念館を視察しました。原爆資料館は被爆の実相や核兵器の危険性など、被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や絵などの資料が展示され、昭和20年8月6日に広島で何が起こったのか伝わりました。核兵器の危険性や被爆前後の広島歴史についても展示され、被爆者証言ビデオを自由に視聴できるコーナーもありました。次に平和ガイドの新谷さんの案内でアオギリ、峠三吉詩碑を見学し、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館に入りました。平和祈念館は原爆死没者を静かに追悼し、平和について考える場所です。被爆者が体験した被爆の惨禍の動画を閲覧し、死没者追悼空間、原爆死没者のお名前と遺影（写真）が登録されている部屋を見学しました。その部屋では死没者の名前で検索すると亡くなられた方の遺影とプロフィールを拝見することができました。その後、原爆ドームを遠目で観て、原爆の子の像、原爆供養塔、韓国人原爆犠牲者慰霊碑、慈仙寺跡、広島平和都市記念碑、市立高女慰霊碑、マルセルジュノー博士記念碑、白神社、旧日本銀行広島支店、袋町小学校平和資料館を見学して、折鶴タワーで昼食をとりながら広島県生協連の福島専務補佐、平和ガイドの新谷さんと交流、振り返りをおこないました。参加者からは「今後の平和への取り組みの参考になった」「今まで、実際に見る機会が少なかったので勉強になった」等の感想をいただきました。



【被爆したアオギリ】 爆心地から1,300m地点で被爆しましたが、現在も成長を続けています



【峠三吉誌碑】 峠三吉は爆心地から3kmの地点で被爆し、原爆反対平和養護の作品を数多く発表しました



【原爆の子の像の前に並ぶ参加者】 佐々木貞子さんは被爆10年後、白血病で亡くなりましたが、死後、級友たちが国内外に呼びかけ、原爆の子の像が建立されました。



【原爆供養塔】 各地に散在していた遺骨をここに集め納められました。未だに引き取り手のない遺骨は多数あります。



【広島市立高女原爆慰霊碑の視察の様子】 爆心地から約500mの場所で建物疎開作業中に被爆し、1・2年生のほぼ全員が亡くなりました。



原爆死没者慰霊碑の前で平和ガイドの新谷さんの説明



折鶴タワーから観た原爆ドーム

IYC2025 記念「ちばの海を守ろう！キャンペーン」 2025年度 環境学習会



日 時：2025 年 12 月 15 日（月）10：00～12：00
会 場：こくみん共済コープ千葉推進本部 会議室
主 催：千葉県生活協同組合連合会
共 催：千葉県協同組合提携推進協議会



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

こくみん共済コープ千葉推進本部
なのはな生協、生活クラブ生協（千葉）
パルシステム千葉

後 援：淑徳大学

参加者数：講師、事務局を合わせて 38 人

内 容：「国際協同組合年」を記念する継続した取り組みとして、千葉県内の生協や農協・



漁協、森林組合などの協同組合が手を取り合い「ちばの海を守ろう！」キャンペーンに取り組むこととなりました。来春開催予定のビーチクリーンのキックオフとして、千葉県漁業協同組合連合会、環境団体を講師にお願いし、事前の環境学習会を開催しました。

開催にあたり、千葉県生活協同組合連合会（以下、千葉県生協連）

尼崎英之 専務理事より、開催挨拶として本学習会の趣旨を説明した後、講師にお話しいただきました。（抄録・文責 事務局）

■千葉県の海と漁業について ～豊かな海を目指して～



講師：千葉県漁業協同組合連合会（JF 千葉漁連）参事 鶴岡裕生さん

銚子漁港は 2011 年から 2022 年まで 12 年連続で年間水揚げ量日本一を記録している、千葉が誇る県内拠点です。また、全国トップクラスの魚種があり、江戸前寿司のネタとなる「コノシロ」や、東京湾の「スズキ」は全国シェアの約 7 割を占めるなど、全国 1 位の漁獲量を誇る魚が数多くあります。また、千葉県産の海苔は香りが強く、味が良いのが特徴です。

しかし、多くの魚介藻類といった海の資源は減少しており、漁獲サイズの制限や禁漁期の設営といった「資源管理」が極めて重要です。特に、海水温の上昇により、魚の生息域が北上していること、「磯焼け」や原因不明の食害によって海藻や貝類（アサリ等）が激減しており、深刻な問題となっています。

担い手不足も大きな問題になっており、昭和 63 年に約 12,000 人いた就業者は、令和 5 年には約 2,600 人まで減少しました。高齢化も深刻で、65 歳以上の割合が非常に高くなっています。

そのような中、漁業者の思いは「見た目のきれいな海」ではなく、「魚介藻類が棲息できる豊かな海」にしてゆく事です。消費者の皆さんと一緒に取り組んでゆきたいと思います。



渡部さんからは、ウミガメの生態やビーチクリーンへの思いをお話いただきました。

■ウミガメの調査と環境保全について 講師：一宮ウミガメを見守る会 会長 渡部明美さん



一宮町は、実は千葉県の中でも非常にウミガメの産卵が多い場所です。アカウミガメが卵を産みに来ますが、実は日本が北太平洋で唯一の産卵地であり、千葉県は北限に近い、非常に重要な場所です。卵からかえった子ガメが海に帰り、30年後に親になってまたこの浜に戻ってこられる確率は、数千分の一と言われています。

昔に比べると、砂浜が狭くなってきたり、夜の灯りが明るくなりすぎたりして、カメが海から上がってきにくい環境になっています。ゴミの問題も深刻です。プラスチックゴミを食べてしまったり、放置された網（ゴーストネット）に絡まって身動きが取れなくなってしまう個体もいます。産卵シーズン（概ね5月～8月）になると、毎朝早くに浜を歩いて、ウミガメが上陸した足跡を探します。卵が見つければ、状況に応じて安全な場所に移植したり、外敵（カラスやタヌキなど）から守るための対策を講じます。そして、孵化して海に帰るまでを静かに見守り続けています。

毎月ビーチクリーン活動に取り組んでいます。具体的なゴミ拾いも大切ですが、何より大切なのは「人間以外の生き物のことを考えて想像し、行動すること」です。人間が出したゴミは人間にしか片付けられません。海の生き物に必要なものは、片づけない。私たちのすぐそばに、こんなに一生懸命生きている生き物がいるということを想像してみてほしいと思います。

また、ウミガメの放流や観察を、子どもたちは本当に喜びます。こうした体験を通じて、次の世代にこの豊かな海的环境をつないでいきたいと考えています。



参加者との質疑応答や意見交換もおこなわれ、最後に司会の千葉県生協連 高山由美子理事から参加者に向けて、来春開催のビーチクリーンの予告と参加の呼び掛けの後、閉会しました。

参加者の感想

- 漁連さんは身近にあるけれど、仕組みや現状など知らないことが沢山あり、貧酸素水塊などの深刻な問題も知ることができました。
- 環境問題について、現状を知ることがとても大切だと思いました。
- 海的环境に興味を持ち続け、自分にできることをすることが大切だと思いました。
- 「豊かな海」という漁連さんの思いと「自然環境に配慮したビーチクリーン」という一宮ウミガメを見守る会の思いには通じるものがある、と感じました。
- 生協連で「ビーチクリーン活動」を開催し、千葉に暮らす人々や海や水資源などの環境について考える機会を作ってほしいです。



令和7年度国際協同組合年記念・千葉大学公開寄附講座 開講報告



令和7年度千葉大学公開寄附講座「非営利市民事業と協同組合」が開講されました。この講座は、IYC（国際協同組合年：International Year of Co-operatives＝IYC）記念全国協議会による、大学生が協同組合について学ぶための寄附講座・協力講座等の一つで、現在は日本協同組合連携機構（JCA）が主催者として開講するものです。千葉大学での開講は今年で12年目となり、事務局を担う日本生協連とともに、千葉県生協連も企画・運営に協力しています。

千葉大学の普遍教育として開講しており、2025年度は第1タームが554人（昨年366人）、第2タームでは571人（昨年477人）の学生が履修しました。また、1学年が70%（工学部・医学部・法政経学部が多い）、第1タームと第2タームを両方履修した学生は約70%でした。なお、講義は第1タームおよび第2タームの両方を履修したとしても内容が重複しない構成としています。

本年は「2025 国際協同組合年」でもあることから、IYC2025の説明と各協同組合セクターの取組活動紹介などもおこないました。会員生協からは、第1ターム（4月、5月）に千葉大学生協と生活クラブ生協、第2ターム（6月）ではパルシステム千葉に講師をお願いしました。

◆令和7年度千葉大学公開寄附講座 「非営利市民事業と協同組合」

○2025年4月11日ガイダンス・大学生協

講師：千葉大学非常勤講師 石澤 香哉子先生
：千葉大学生協 柴崎智彦 専務理事

初めに、この講座の概要と趣旨・目的を説明しました。
大学生協の概要と千葉大生協の説明、生協の理念や組織、これからの大学生協などについて説明していただきました。



○2025年5月16日開催 購買生協（宅配・店舗事業）

講師：生活クラブ生協 福住洋美 理事長
「生活クラブ虹の街の事業と運動」

生活クラブの事業と運動、また生活クラブ千葉グループが進める「ローカル SDGs」の実践、地域共生社会実現に向けた地域づくりなどについて話されました。

○2025年6月13日開催 購買生協（宅配事業）

講師：生活協同組合パルシステム千葉
管理本部 人事教育部 柏原 勇太さん

若手職員の稲毛センター供給 近藤潤さん、松戸センター営業 平田真弥さんのインタビューも交え、生活協同組合パルシステム千葉の理念や事業、働く現場の様子などをお話していただきました。



千葉県生協連の主な活動予定 2026.1～2026.3

1月			2月			3月		
日	曜		日	曜		日	曜	
1	木		1	日		1	日	
2	金		2	月	中央地連MCA通信訓練/子どもたちに平和な未来を2026第2回実行委員会	2	月	
3	土		3	火		3	火	県連MCA無線
4	日		4	水		4	水	憲法学習会
5	月		5	木		5	木	大規模災害対策協議会・第5回サポちば理事会
6	火	県連MCA無線	6	金	食・消費者委員会	6	金	
7	水		7	土		7	土	
8	木		8	日		8	日	
9	金	第4回サポちば理事会	9	月		9	月	
10	土		10	火		10	火	
11	日		11	水		11	水	
12	月		12	木		12	木	
13	火		13	金		13	金	第2回職域生協部会
14	水		14	土		14	土	
15	木		15	日	「子どもの事故防止」学習会	15	日	
16	金		16	月		16	月	
17	土	「子どもの事故防止」学習会	17	火		17	火	消団連代表幹事会
18	日		18	水		18	水	
19	月		19	木		19	木	
20	火		20	金		20	金	
21	水	大規模災害対策協議会	21	土	千葉県消費者大会	21	土	
22	木	第5回理事会	22	日		22	日	
23	金		23	月		23	月	
24	土		24	火		24	火	第6回理事会・地域生協部会
25	日		25	水		25	水	
26	月	第4回地域・まちづくり委員会	26	木	第2回広報担当者・消費者行政連絡会	26	木	
27	火		27	金		27	金	第5回地域・まちづくり委員会
28	水		28	土		28	土	
29	木					29	日	
30	金	次世代との交流会				30	月	
31	土					31	火	

千葉県生活協同組合連合会会員一覧

生活協同組合コープみらい	千葉県本部所在地 千葉市中央区新田町 36-15 HP アドレス https://mirai.coopnet.or.jp/
生活協同組合パルシステム千葉	所在地：船橋市本町 2-1-1 船橋スクエア 21 4F HP アドレス https://www.palsystem-chiba.coop/
生活クラブ生活協同組合	所在地：千葉市美浜区真砂 5-21-12 HP アドレス https://chiba.seikatsuclub.coop/
なのはな生活協同組合	所在地：千葉市稲毛区長沼原町 678-2 HP アドレス https://nanohana-coop.net/
千葉県庁生活協同組合	所在地：千葉市中央区市場町 1-1 HP アドレス http://www.chibakenseikyo.or.jp/
千葉大学生生活協同組合	所在地：千葉市稲毛区弥生町 1-33 HP アドレス http://www.univcoop.jp/chiba-u/
東邦大学消費生活協同組合	所在地：船橋市三山 2-2-1 HP アドレス https://www.univcoop.jp/toho/
千葉商科大学生活協同組合	所在地：市川市国府台 1-3-1 HP アドレス http://www.univcoop.jp/cuc/
千葉県学校生活協同組合	所在地：千葉市中央区中央 4-13-10 千葉県教育会館新館 6F HP アドレス https://www.jcgsk.com/
生活協同組合ちば住宅コープ	所在地：船橋市前原西 2-12-7 津田沼第一生命ビルディング 6F HP アドレス http://www.cjcoop.or.jp/
千葉県高齢者生活協同組合	所在地：千葉市美浜区真砂 5-21-12 HP アドレス http://chiba-koureikyou.sakura.ne.jp/
千葉県勤労者共済生活協同組合	所在地：千葉市中央区弁天 1-17-1 HP アドレス http://www.zenrosai.coop/
〈準会員〉東都生活協同組合	所在地：東京都世田谷区船橋 5-28-6 吉崎ビル 4 F HP アドレス http://www.tohto-coop.or.jp/
〈準会員〉常総生活協同組合	所在地：茨城県守谷市本町 281 HP アドレス https://www.coop-joso.jp/



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



チーバくん
ちばSDGs



千葉県生協連 HP はこちら



千葉県生活協同組合連合会

千葉市中央区中央 4-13-10 (千葉県教育会館 5F)
tel. 043-224-7753 fax. 043-225-3459
<http://chiba-kenren.jp/>



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

千葉県生活協同組合連合会は 2025 国際協同組合年に賛同しています